

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670400746
法人名	特定非営利活動法人米沢清友会
事業所名	グループホームピュアフォレスト
訪問調査日	平成 20 年 10 月 24 日
評価確定日	平成 20 年 12 月 3 日
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月26日

【評価実施概要】

事業所番号	670400746		
法人名	特定非営利活動法人米沢清友会		
事業所名	グループホームピュアフォレスト		
所在地 (電話番号)	山形県米沢市大字三沢26106番地14 (電 話) 0238-21-1973		
評価機関名	山形県国民健康保険団体連合会		
所在地	山形県寒河江市大字寒河江字久保6番地		
訪問調査日	平成20年10月24日	評価確定日	平成20年12月3日

【情報提供票より】(平成20年9月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14 人, 非常勤 人, 常勤換算 人	

(2)建物概要

建物形態	併設／単独○	○新築／改築
建物構造	木造	造り
	2 階建ての	階 ～ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無○	
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(50,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有／無○
食材料費	朝食	500 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 200 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(9月1日現在)

利用者人数	17 名	男性 5 名	女性 12 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名
要介護3	3 名	要介護4	6 名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 81.5 歳	最低 58 歳	最高 91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	たかだ内科 米沢市立病院 くまの医院 山崎歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然豊かな環境の中、子供たちや近所の方々も気軽に立ち寄ることができ、「四季の祭り」や「家族旅行」などのホーム行事、「地区運動会」や「夏祭り」などの地域行事にも積極的に参画しています。
また、利用者一人ひとりが「人生の先輩」であると考え、「敬愛の心」でもてなし、本人の気持ちを一番に考えた絆づくり、心のふれあいと笑顔のある暮らしの実現など、より質の高いサービス提供を目指す取り組みを進めてきているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題はありません。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) サービス評価の「意義とねらい」についての話し合いが運営者と全職員で行われており、全員で評価に取り組んでいる。また、外部評価結果についての会議での報告や改善に向けた具体的な話し合いも行われ、実践につながられている。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 会議は3ヶ月に一度開催されており、外部評価結果の報告と情報の提供、参加者から質問や意見を受けるなど、双方向的な会議となるようにしている。また、会議で出された課題についてのアンケートを家族に行うなど、最も良い改善策を見い出すための働きかけも行われている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族に利用者の状況を伝えるとともに、家族の意見や苦情を聞くようにしており、家族から出された意見・要望については「アンケート形式」も取り入れながら、家族の意見をより反映できるよう取り組んでいる。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームに近所の子供達が遊びに来たり、小・中学生のボランティアを受け入れたりしている。また、地域の一員として町内会に入っており、地区のお祭りや運動会、学校行事などにも積極的に参加し、交流を深めてきている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者が地域の中で安心して暮らしができるように、豊かな地域社会づくりを目指す、事業所独自の理念を全職員でつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝礼時に理念を唱和する、会議等で話し合うことなどにより、理念を実践できるよう取り組んでいる。また、職員採用時にも理念を理解してもらえるよう取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームに近所の子供達が遊びに来たり、小・中学生のボランティアを受け入れたりしている。また、地域の一員として町内会に入っており、地区のお祭りや運動会、学校行事などにも積極的に参加し、交流を深めてきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の「意義とねらい」についての話し合いが運営者と全職員で行われており、全員で評価に取り組んでいる。また、外部評価結果についての会議での報告や改善に向けた具体的な話し合いも行われ、実践につながられている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は3ヶ月に一度開催されており、外部評価結果の報告と情報の提供、参加者から質問や意見を受けるなど、双方向的な会議となるようにしている。また、会議で出された課題についてのアンケートを家族に行うなど、最も良い改善策を見い出すための働きかけも行われている。		

山形県 グループホームピュアフォレスト

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者にホームの考え方や現場の実情を伝え、不明な点や課題についての質問・意見交換を行って、共にサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりや健康状態は“清友会だより”の形で毎月手書きにより家族に伝えられ、また、領収書、レシート、出納内容のコピー郵送による金銭管理状況の報告、「たより」と電話による職員異動の報告も行われており、個々にあわせた定期的な報告が実施されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に利用者の状況を伝えるとともに、家族の意見や苦情を聞くようにしており、家族から出された意見・要望については「アンケート形式」も取り入れながら、家族の意見をより反映できるよう取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者や家族との信頼関係を築き、「馴染みの職員」という関係が尊重されるよう、できるだけ職員の異動は行わないようにしている。やむを得ず職員交代があった時には、利用者と家族に十分な説明を行い、また、職員間の引き継ぎを綿密にして利用者へのダメージを防ぐよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数やそれぞれの段階に応じた法人内外の研修を計画的に実施されている。また、研修内容については全体会議で報告され、研修資料等の回覧も行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入しており、他ホームの見学や交換実習が積極的に行われている。また、東北ブロック研修会の実行委員にもなっているため、同業者や他の法人事業者との交流する機会を活かした取り組みが進められている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「利用者は人生の先輩である」という考えを職員全員で共有しており、「わらび」「ぜんまい」の下ごしらえや野菜の切り方など、日々の暮らしの中で利用者から教えてもらう場面を数多くつくり共に支え合える関係ができるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの中での声かけや利用者一人ひとりとの関わりの中で、それぞれの思いや希望を把握するように努めている。また、意思疎通が困難な方の場合には、家族にも確認したり、本人の表情や言葉から汲み取ったりしながら、本人本位に検討されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	できるだけ多くの情報や一人ひとりの思いや意向を踏まえ、職員全員が参加する検討会で介護計画が作成されており、利用者自身がより良く暮らせるための個別・具体的な計画になっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度定期的な見直しを行うが、その前に状態変化がみられた場合には、本人や家族とも話し合いながら、現状に即した新たな介護計画を作成するようにしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる	(小規模多機能型居宅介護のみの調査項目)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	受診時は基本的には家族が同行することになっているが、緊急時や都合のつかない場合には職員が受診に同行する場合もあり、受診の際の情報伝達や受診後の情報共有が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき だけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	重度化した場合や終末期のあり方について、利用者、家族、かかりつけ医との話し合いが行われており、方針を全員で共有するようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシー保護に気をつけており、言葉かけや対応方法について配慮されている。また、記録やメモは利用者からは見えないところで書き、書いたものは放置しないようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるものの、その日に何をしたいかを利用者との会話や表情などから把握し、本人の要望やペースを大切にできる支援に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの力を活かしながら、配膳や後片付け、調理、食事を職員と一緒にやっている。また、メニューの内容を利用者と一緒に決めたり、畑で作った野菜を食材として使ったりしながら、食事がさらに楽しめるように工夫されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望する曜日や時間帯で入浴することができ、無理強いすることなく、週2～3回の入浴が確保されている。また、北館にはリフトバスの設備もあり、安全で快適な入浴のための支援がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	「農作業」「山菜の下処理」「キノコ狩り」「雪囲い」「習字」「将棋」「ぬり絵」「ちぎり絵」など、利用者一人ひとりが得意分野の中で力を発揮しながら、毎日を楽しく過ごせるように支援されている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の気分、希望、天気により、散歩やドライブ、外食、馴染みの床屋に行くなど、利用者が戸外に出かけられるように支援されている。また、冬期間や歩行が難しい方の場合でも、車や車イスを上手に利用し、積極的に外に出かけられるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害は全職員に理解されており、利用者一人ひとりの生活習慣と外出傾向を把握した上で、玄関に鍵をかけない自由な暮らしが支援されている。また、一人である利用者を見かけた場合には、近隣の方々からも声がけや連絡をしてもらえる関係もできている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の協力を得ながら、昼・夜の災害発生を想定した総合訓練(避難誘導訓練、招集訓練、消火訓練等)が、春と秋の年2回行われており、また、乾パンの備蓄や懐中電灯などの準備もなされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分と食事の摂取量は利用者ごとのチェック表に毎回記入されており、職員間での内容共有ができています。また、栄養士の有資格者が職員にいますため、栄養バランスにより配慮した食事が提供されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	やさしい自然光が差し込むリビングには、手作りカレンダー、見やすい時計、定期的にかき換えられる絵画などがあり、利用者の目と心を楽しませてくれています。また、大きな窓からは近くの田畑や遠くの間々も見えるため、季節を身近に感じることのできる居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れたダンス、イス、テレビ、思い出の写真、仏壇などが居室に持ち込まれており、その人らしい空間の中で、快適に過ごせるようになっている。また、居室は利用者の希望により、「畳＋ふとん」のスタイルで使用することも可能である。		